

# 町財政 弾力性を失いつつ硬直化進行

## 平成十七年度決算審査意見書要旨

平成十七年度須恵町一般会計、特別会計ならびに水道事業会計について、監査委員による決算審査が六月～八月にかけて実施され、その結果が意見書として八月三十日、町長に提出されました。

### ◆国民健康保険 特別会計◆

国保運営の根幹をなす自主財源の確保は大変重要なことであり、今後とも税の確保には鋭意努力されることをお願いしたいと同時に、いかに医療費を抑制するかが大きな課題です。

◆一般会計◆  
町債の発行、債務負担行為の設定に当たっては、将来にわたる財政の健全性の確保に十分な配慮が望まれ、今後一層諸経費を削減するとともに、施策の緊急度を的確に把握し、行政の簡素化・効率化に努め、計画的な行政運営によって、健全財政の推進を図ることが肝要であると考えられます。

### ◆老人保健特別会計◆

町においては、これまで以上に住民健診・健康相談・訪問事業等をはじめとする予防事業の充実を図るとともに、高齢者も一人一人が健康に関心をもち、健康で生きがいを持てる暮らしが実現できるよう願うものです。

### ◆公共下水道事業 特別会計◆

自主財源ともいえる受益者負担金および下水道使用料は、下水道事業の普及により昨年度に比べ

増収となっております。なお、県支出金は基準値を上回ったためカットされています。普及状況は、昨年より増え、全人口の約四割となり、計画に対して先行しています。また、水洗便所化は処理人口の約七割弱の状況です。借入額は昨年と同様で十七年度末の未済額は、五十億円を超えます。今後下水道整備事業

の続行に伴い借入額も増えることが予測されます。事業の推進に当たっては、経費面を考慮した効果の高い事業展開をお願いいたします。

### ◆農業集落排水事業 特別会計◆

平成十一年度から十六年度まで、町債の借入は発生していませんでしたが、十七年度は「資本費平準化債」として借入が発生しました。

### ◆水道事業会計◆

平成十一年度から十六年度まで、町債の借入は発生していませんでしたが、十七年度は「資本費平準化債」として借入が発生しました。

現在は維持管理業務が主なものとなっておりますが、今後は維持管理にかかるコストの問題が懸念されるため、削減については十分留意されるよう望みます。



町長に決算審査意見書を提出する本園監査委員（写真中央）と今村監査委員（写真左）

## 議長通信

例年九月定例会は、十七年度の各会計の決算が主な審議対象となります。本町は一般会計を始めとして七会計ありますが、運営状況はというと基金の取り崩しや、他の会計からの繰入により収支のバランスを取らざるを得ない、誠に厳しいものになっています。

## 9月議会を終えて



議長 長澤 誠司

◆議員定数協議◆  
九月十九日、一般質問終了後の全員協議会において、三月定例会号、六月定例会号に掲載しております「定数削減案」について、前回の協議内容を踏まえ、五回目となる協議をしました。

◆開かれた議会 運営に努める◆  
議会としましては、定数削減を含め、多くの諸問題、また町が進めています「行財政改革」に全面的に協力していきたい

削減数（何名にするか）については十二月定例会の中で協議を行い、最終

と想っています。議員各位が「熟慮断行」(十分に考えた上で思い切って実行に移すこと)という言葉を十分理解し、町民皆様の「代弁者」として町政に「邁進」(心をふるい立たせて突き進むこと)し、町民の皆様にわかりやすい開かれた議会運営に努めてまいります。

四のフルインターとなり利用台数も漸次増加しています。社会実験を開始した平成十六年十二月の日平均台数は二百九十九台でしたが、本年七月二十八日には二千八百一台と過去最高を記録しています。

### ◆本格運用

このような状況において、平成十八年七月

十日に国土交通省より「スマートインターチェンジ制度実施要綱」が発表され、本格運用に向けての手続きが示されました。これに基づき、協議会におきまして「高速自動車道法」に基づき、町道より高速に乗り入れるための「連結許可申請書」を作成し、それぞれ八月十七日に国土交通省へ提出しています。

これが許可になると、十月一日より本格運用となります。

名称も全国的に「SA、PA」などは除かれ、ETC限定IC「須恵スマートIC」となる予定です。

本格運用後も、協議会を存続させ将来的な整備を含め、協議を行っていく予定です。

## 町長報告



町長 中嶋 裕史

## 須恵パーキングエリア・スマートインターチェンジ

### ◆三回の社会実験 延長を経て

平成十六年十二月十八日より国土交通省、福岡県等と共同で須恵スマートインターチェンジの社会実験を実施してきました。その後、三回の実験延長を経て、現在本年九月三十日までの実験を実施しています。

その間、平成十八年二月十五日より四分の